

リハビリテーション科コース

後期研修では、研修医は、単独でリハビリテーション科診療を行えるように経験を積んでいく。研修医は、単独で患者さんの診察、障害の評価、リハビリテーションの処方を行い、各患者さんについて、指導医に報告し、ディスカッションを行う。週間のスケジュールは下記のとおりである。

リハビリテーション科では、医師はリハビリテーションのチームリーダーとしての役割を果たさねばならない。実際に、各患者さんの病状に応じた対応・指示を速やかに行い、また、カンファレンスにおける司会・統括者としてチームのマネジメントを行う。

当院は、日本リハビリテーション医学会認定のリハビリテーション医学研修施設であり、後期研修医がリハビリテーション科専門医の資格を獲得できるよう支援する。研修内容については、日本リハビリテーション医学会の教育研修カリキュラムを参考にする必要があり、各種の疾患の患者さんの診療を経験する必要がある。当院では経験できない最新のリハビリテーション医学研究への取り組みとチーム医療のシステムを学ぶために岡山大学医学部リハビリテーション部へ、また、脳性麻痺その他の小児疾患の診療を経験するためにかがわ総合リハビリテーションセンターへ、期間を限定してではあるが、見学のため出向することも計画可能である。リハビリテーションに対する診療報酬や医療経済学的な考え方にもふれる機会を持ちたい。

後期研修における具体的な目標

- ・主な障害の評価（片麻痺評価、A D L 評価）
- ・障害診断のための検査（電気診断、嚥下造影など）
- ・病態別の障害の予後判定
- ・リハビリにおけるインフォームドコンセントの実践
- ・リハビリ・カンファレンスにおける司会・統括
- ・主要な疾患のリハビリ処方
- ・廃用予防・転倒予防のための指示・指導
- ・基本的病態に対する理学療法手技の習得
- ・リハビリに際しての医学的リスク管理（運動負荷など）
- ・主要な義肢装具の処方と適合判定
- ・身体障害者手帳などの障害診断書の記載
- ・医学論文作成、学会発表

